

イチゴ炭疽病の発生を回避できる高設育苗棚の高さ						
[要約]イチゴを高さ80cmで高設育苗することにより、 <i>Colletotrichum acutatum</i> による炭疽病の汚染土壌からの水滴による伝染を回避できる。しかし、高さ40cmでは回避できない。						
総合農林試験場・環境部・病害虫科	専門	作物病害	対象	果菜類	分類	指導
資料名：平成12年度普通作・野菜等病害虫試験成績書						

[背景・ねらい]

イチゴにおいて、炭疽病（病原菌：*Glomerella cingulata*, *Colletotrichum acutatum*）は重要病害の1つであり、多発すると苗不足を招く。本病の防除は薬剤散布を中心に行われているが、十分な効果を得ていない。また、雨よけ育苗は本病の防除効果が高いが、夏季に高温になることや寒冷紗の設置によつての徒長やうどんこ病の発生助長等の問題がある。

そこで、*G. cingulata*によるイチゴ炭疽病菌は、雨滴による分生子の飛散試験（最大風速10mの育苗条件下）で、垂直方向の飛散は高さ35cmまでの範囲で激しく、60cmで顕著に減少し、75cmでは認められない（奈良県農試、1994年）ことから、本菌の分生子と大きさがほぼ同一である*C. acutatum*を用いて、汚染圃場において高設育苗を行い、水（雨）滴による伝染の回避効果を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1．高さ80cmのイチゴ高設育苗において、プランターに植付けた親株から採苗して育苗することにより、薬剤無散布でも育苗期間を通じて*C. acutatum*による炭疽病の発生を認めず、回避できる（表1、写真1、図1）。
- 2．しかし、高さ40cmでは7月上旬から発病が認められ、汚染土壌からの水滴による伝染を回避することができない（図1）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．いったん発生すると平地と同様に蔓延するので、無病な親株と床土の使用が必要であり、また、台風等の強風による水滴飛沫感染の可能性があるので注意する。
- 2．これは、*G. cingulata*による炭疽病にも活用できると思われる。

[具体的データ]

表 1 高設育苗の栽培概要

区	高さ	マルチ	薬剤散布	親株	床土
80cm高設	80 c m	無	無	無病株	無病
40cm高設	40 c m	無	無	無病株	無病
無 処 理	0 c m	無	無	無病株	無病

試験開始 平成12年 4月20日



写真 1 試験状況(手前：40cm高設、奥：無処理)

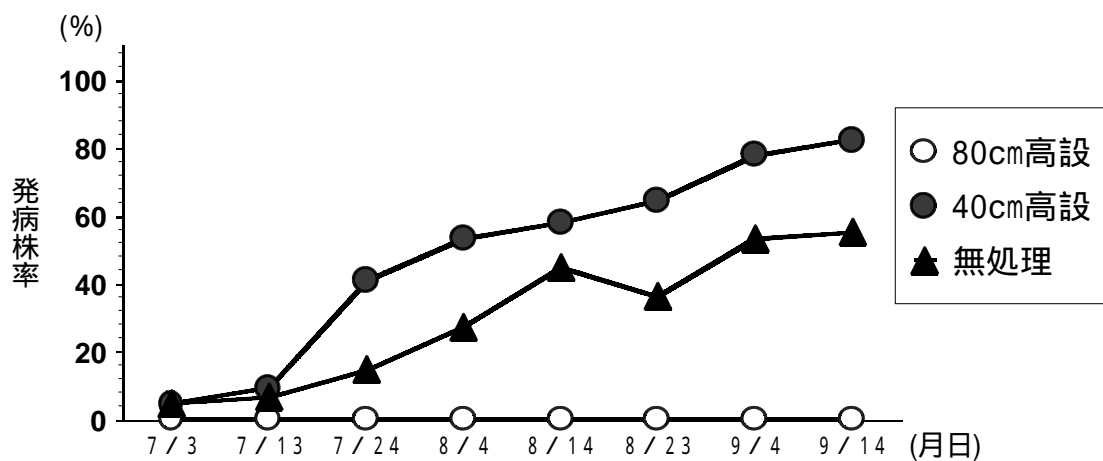


図2 イチゴ炭疽病の発病推移 (発病株率)

[その他]

研究課題名：突発性障害に対する緊急調査と対策

予算区分：県単

研究期間：平成12年度(昭和60年度～)

研究担当者：織田 拓

既発表論文等：なし